

クラス番号	602	担当教員名	堀場 純矢
テーマ	児童養護施設からみた子どもの貧困と職員の働き方		
著書・論文 研究課題等	研究課題：児童養護施設職員の働き方、児童養護施設でくらす子どもと親の生活問題 主著：『子ども白書2014』（本の泉社）、『階層性からみた現代日本の児童養護問題』（明石書店） 『子どもの社会的養護内容』（福村出版）、『施設で育った子どもたちの語り』（明石書店）		

ゼミナール概要

キーワード：児童養護施設、社会的養護、子どもの貧困・虐待、職員の働き方、子ども・親へのケア

1. 目的・内容

近年、社会的養護（児童養護施設・乳児院・里親など）の領域では、施設の小規模化・地域分散化や里親・ファミリーホームを重視した「家庭的養護」が政策的に推進されています。また、児童養護施設（以下、施設）の職員配置基準が近年少しずつ改善されていますが、施設の小規模化のなかで、子どもと職員が密接にかかわる家庭的な生活環境が築ける一方、施設内でユニットごとに少人数の職員が分散して勤務することにより、子どもとのかかわりや職員同士の関係、働き方の質が大きく変化しています。そこで、ゼミでは以下の3点を中心に考えていきます。

- ①子どもと親が児童養護問題（貧困・虐待など）を抱えるに至った背景に何があるか？
- ②施設で子どもと親をどのようにケアしていくか？それにはどのような条件整備が必要か？
- ③施設で女性職員が結婚・出産後に働き続けるためには何が必要か？

以上のことを学ぶため、ゼミの他、全国児童養護問題研究会全国大会・支部学習会、学内学会などにも参加し、施設職員や施設生活経験者との学習・交流をとおして、社会的養護について体験的に理解を深めます。その他、希望者を対象に先駆的な実践をしている施設の見学（2015年は京都府・つばさ園、福井県・一陽）なども行っています。

2. 授業計画

- 3年：①関心のあるテーマごとにグループ作業・報告・討議，②全国児童養護問題研究会全国大会への参加（6月末の土日、2016年は大阪、全員参加の予定），③夏休みの課題・報告，④社会的養護に関する専門書をもとにレジュメの作成・報告・討議，⑥卒論に向けての個別発表・意見交換，卒論の体裁・書き方
- 4年：①卒論の個別発表，②卒論の執筆・添削、国試対策、③卒論完成・提出、卒論報告会

※このゼミを希望する学生はエントリーシートに、①関心を持っているテーマと概要，②卒業後に考えている職業（現段階で）についても記載して下さい。

担当教員からのメッセージ



このゼミは、①積極的に仲間と議論し、学びあう姿勢のある学生、②将来、児童養護施設・乳児院・母子生活支援施設などの児童福祉施設職員、司法・福祉系公務員として働きたいと考えている学生を歓迎します。ゼミでは、とくに卒論指導と児童福祉施設への就職支援に力を入れています。メリハリのある、楽しいゼミにしましょう。